

関西電力病院における糖尿病透析予防指導について

関西電力病院 疾患栄養治療部 栄養管理室 北谷直美

本年4月の診療報酬改訂で「糖尿病透析予防の評価」として「糖尿病透析予防指導管理料 月1回350点」が新設されました。関西電力病院では【施設基準】に従い、糖尿病及び糖尿病腎症の予防指導に従事した経験を5年以上有する医師6名、看護師4名、管理栄養士4名からなる透析予防診療チームを設置し、透析予防指導管理料の算定に向けてのシステム作りを進めていきました。【算定要件】には、入院中以外の糖尿病患者（通院する患者のことをいい、在宅での療養を行う患者を除く）のうち、HbA1cが6.5%（NGSP値）以上、又は内服薬やインスリン製剤を使用している者であって、糖尿病腎症第2期以上の患者（現に透析療法を行っている患者を除く）に対し、透析予防診療チーム（医師・看護師・管理栄養士）が、同一日に指導を実施した場合に算定できると明記されています。

糖尿病患者の中で、算定の対象となる糖尿病腎症2期以上と診断される割合が約40%とのデータもあり、透析予防診療チームは、個々にあわせた目標について指導計画を立て、進めていくことが大切です。「糖尿病による透析導入を減らす」といった目的に向けて、エビデンスを出すことにも取り組んでいかなければなりません。

各職種の役割

【医師】 診断（腎症2期、3期A、3期B、4期）

診察・検査結果の説明、「透析予防プログラム」導入の決定。

動機づけのための説明を患者に十分に行う。

看護師・管理栄養士への食事・運動療法の指示、今後の目標の設定。

【看護師】 医師の指示内容（食事・運動など）の確認。身体状況の確認（身長・体重・血圧の計測）、足のチェック。服薬状況のチェック（内服薬の飲み方・インスリン注射手技など）。

糖尿病連携手帳（日本糖尿病協会発行）の記入と確認。

【管理栄養士】 医師の指示内容（食事・運動など）の確認。身体状況、薬物治療の確認。

食事摂取量の把握と内容分析を必ず行い栄養指導を実施。

→従来の栄養指導との違いを説明し、より細やかな指導のため、医師、看護師との連携を強化していく。

検査データの把握と収集。

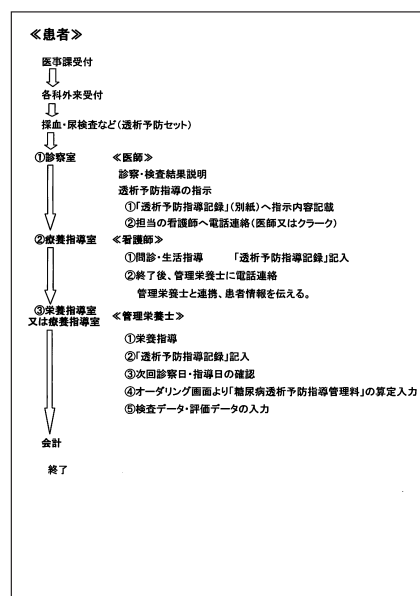
「糖尿病透析予防指導」は、特に食事療法が重要であり、管理栄養士の果たす役割りは極めて大きいことを十分に認識し指導にあたること。

「糖尿病連携手帳」の活用

日本糖尿病協会では、「糖尿病透析予防指導管理料」の新設に合わせて内容を強化、1日の食事指示内容が従来の総エネルギー量に加え、炭水化物・蛋白質質・食塩相当量の記入欄が増えたこと、検査結果のページでは、特に尿検査と腎症の病期の項目を強化され、「透析予防指導プログラム」では、患者と病院スタッフ、病診連携に活用できる内容となっています。

関西電力病院 糖尿病透析予防指導記録									
実施日 平成 年 月 日 ()									
医師		看護師		管理栄養士					
患者情報									
糖尿病(1型・2型・その他)		糖尿病腎症(2期・3期A・3期B・4期)							
血圧(/ mmHg)	身長(cm)	現体重(kg)	理想体重(kg)	HbA1c(NGSP値 %)					
eGFR()		薬物療法 有・無(注射薬・経口薬)							
食事指示量 医師									
エネルギー kcal	たんぱく質 g	糖質 g	食塩 g	エネルギー kcal/kg					
たんぱく質 g/kg	糖質 g/kg	食塩 g	カリウム制限 有・無	指示内容(今後の計画と目標)					
担当看護師()									
指導内容		今後の指導計画と目標							
担当管理栄養士()									
指導内容		今後の指導計画と目標							

糖尿病透析予防指導記録表



透析予防指導の流れ